日本未熟児新生児学会　平成 23 年度　評議員会　議事録

日　時：平成 23 年 11 月 13 日（日）11：55 ～ 12：55
場　所：東京国際フォーラム 5 階　B ブロック 5 階 B5 ホール（第 2 会場）

議　事

Ⅰ．報告事項

1. 理事長報告

1）　韓国新生児学会交流について
学術集会第 1 日，11 月 13 日（日）10：45 ～ 11：45 に，第 1 会場にて Chong-Woo Bae 先生に「Surfactant Therapy for Neonatal Respiratory Distress Syndrome：A Review of Korean Experiences Over 20 Years」のタイトルでご講演いただくこととなった。来年春の春季韓国新生児学会では，来年度会長の近藤裕一先生にご講演をお願いする予定である。

2）　新功労会員について
前回の理事会で承認をいただき，奥　起久子先生，判治康彦先生から受諾のご返事があった。明日の評議員会にて承認を受けた後，総会で報告する。お二人には総会で感謝状を授与する予定である。

3）　公益財団法人　日本医療機能評価機構より「重度脳性麻痺児の予後に関する医学的調査報告書」「第 1 回産科医療補償制度再発防止に関する報告書」が送付された件について
日本医療機能評価機構より文書が届いたので学会ホームページの会員専用ページに掲載している。

4）　財団法人　日本予防医学会協会より「夜泣き予防プロジェクト実行委員会」夜泣き防止による育児支援ネットワーク事業」活動報告書が送付された件について
日本予防医学会協会より活動報告書が配布されたので学会ホームページにリンクを作成している。

5）　委員会活動費について
今年度の委員会活動に関わる支出があれば，事務局へ申告するよう指示があった。

6）　文献許諾使用料について
メテオ社の 7 月～ 9 月の文献使用料は合計 525 円で，今年度合計で 1,470 円だった。支払い金額が税込みで 10,500 円を超えた時点で指定口座に振り込まれる予定である。

7）　日本小児科学会分科会補助金の廃止について
日本小児科学会の公益社団法人への移行申請に伴い，平成 23 年度より分科会補助 5 万円／年は今年以降廃止されることとなった。

8）　日本小児科学会「子どもの死に関するわが国の情報収集システムの確立を目指す WG」について
小児科学会より WG 担当者推薦依頼があったため，渡辺とよ子理事にご担当いただいた。また，10 月には委員会を設置して活動を開始することとなり，引き続き渡辺理事にご担当いただく。

9）　厚生労働省より SIDS 対策強化月間の連絡があった件について
厚生労働省から「SIDS 対策強化月間（11 月）の実施について」連絡があった。

2. 第 56 回総会・学術集会について（楠田会長）
学術集会のプログラム内容等について楠田会長，会長補佐の堺　武男先生よりご挨拶があった。

3. 庶務報告（本間幹事）

1）　新入会者，退会者の件
会員数（全会員数 3,194 名，名誉会員 27 名，功労会員 46 名），新入会員 228 名，退会者 207 名について報

告が行われた。平成22年度末の資格喪失者は76名であった。

2)　会費滞納者の件

資料に基づき平成23年度資格喪失退会予定者96名について報告された。平成21年度以降会費が未納で，2月の請求後，10月に再請求を行ったが，10月末現在，振込が確認できていない。12月末日までに振込が無い場合には資格喪失退会となる。

4. 各種委員会報告

1)　学会賞選考委員会（戸苅委員長）

6月に学会賞選考委員会を開催した結果，平成22年度日本未熟児新生児学会賞受賞論文が決定し，第2回理事会にて承認された。受賞者の加藤　晋先生には，本日午後1時30分から第1会場で講演を行っていただく。

2)　フェローシップ選考検討委員会（戸苅委員長）

- 今年度のAJフェローシップ採用者22名（22演題）について資料に基づき報告があった（昨年度:21名）。懇親会には13名が出席予定。該当演題には抄録集・プログラム集の中に★印をつけ，採用者は懇親会会場および演題発表時に「AJフェローシップ」と書かれた赤い名札を着用する。温かい声かけをと呼びかけられた。
- 今年度の佐多フェローシップ採用者，柳　貴英先生が，本日13：50～14：00にメインホールにて「ロンドン留学報告」と題して佐多フェローシップ留学体験記を報告される。

3)　薬事委員会・新生児の輸血問題小委員会（伊藤委員長・小山委員長）

リネゾリドの新生児使用実態調査について，アンケート調査を行い，現在集計中である。また，「必要性の高い未承認薬・適応外薬検討委員会」の第2回募集が行われ，血液型不適合溶血性黄疸に対するガンマグロブリン，PDAに対するイブプロフェン，ミカファンギンの新生児適応拡大の要望書を提出した。新生児輸血に関する合成血の問題については，新生児の輸血問題小委員会の小山典久先生が厚生労働省に赴き，文書を提出した。そのほか，液状化パリビズマブ早期承認についても要望書を作成した。また，適応外使用の場合の有害事象発生について報告制度の構築を目指し，検討している。

4)　雑誌編集委員会（千田委員長）

平成23年の投稿原稿は受付数29編でほぼ例年どおりの応募であった。学会誌に日本語で掲載された論文を英文化して，別の雑誌へ投稿する「Secondary publication（再掲載）」は一定の条件を満たせば二重投稿と見なさない出版形態で，国際的にも認められているため，本学会でも承認することとした。査読が必要になるなどいくつか規則があるので，その詳細を投稿規定に載せ運用されるようにする。

また，研究機関が知的生産物を電子的形態で集積し，保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム「リポジトリ」について，神戸大学から依頼・申請があり，承認することとなった。

5)　教育委員会（中村委員長）

本年8月に安曇野で教育セミナーを行った。参加者は62名だった。ワークショップ報告会の3位以上のグループが，明日第4会場で発表される。来年度は実行委員長に茨理事を迎え，鹿児島にて行う予定。

6)　社会保険委員会（中尾委員長）

RSV抗原検査が外来でも乳児等のいくつかの条件下で認められた。また内保連には，在宅療法児入院管理料，新生児特定集中治療室管理料および新生児集中治療室管理料の算定日数の延長について診療料評価提案書を提出している。

7)　医療器材の安全性確認委員会（猪谷委員長）

サーファクタント補充は血管内誤注入防止のため注射シリンジに吸引しないよう厚生労働省から通達が出ていたが，田辺三菱製薬株式会社が誤接続防止型カテーテルチップシリンジに接続してサーファクテンを

吸引できるサーファクテン専用採液針を作成し，供給することとなった。

8） サーベイランス委員会（久保委員長）

現在，「ダウン症候群に合併した一過性骨髄増殖症（TAM）」「急性期離脱後の極低出生体重児に発症する原因不明の溶血性貧血」についてサーベイランスが行われている。学会ホームページが新しくなったので，今後，会員専用ページを用いたサーベイランス報告システムの構築をめざしている。

9） 規約改定委員会（上谷委員長）

法人化について検討を行っている。

10）学術集会の在り方検討委員会（梶原委員長）

学会ホームページ上に第56回学術集会に関するアンケートをアップしているので入力・送付をと呼びかけられた。

11）広報委員会（側島委員長）

4月に学会ホームページをリニューアルした。リニューアル前よりアクセス数が増えている。今回の学術集会のこともいくつかアップしている。

12）倫理問題検討委員会（田村委員長）

COI（利益相反）について，今後，倫理委員会が担当し検討していくこととなった。

13）医療の標準化検討委員会（楠田委員長）

厚労省指定研究「周産期医療の質と安全の向上のための研究（INTACTプロジェクト）」について，「周産期医療質向上プログラム」の導入施設・非導入施設が40施設集まったので今年度中の登録を目指す。介入群ではワークショップが必要である。ご協力いただく先生方に認定証と感謝状でお礼をする予定である。

14）医療訴訟問題検討委員会（板橋委員長）

報告はありません。

15）医療提供体制検討委員会（茨委員長）

昨年から，正期産正常児の扱いについて検討されている。現在，産科との合同委員会で検討中である。

16）感染対策／予防接種推進室（北島室長）

今年度，2回目の委員会を行う。すでにいくつかの感染症についてアンケートを行い，167施設から回答をいただいている。回答率が十分でないので再度依頼を行う予定である。近年，NICUでの感染症についての全国調査がないので，今後，定期的に行いたいと考えている。

予防接種については，入院中にHib，肺炎球菌，百日咳ワクチンについても済ませられるようにと考えている。

17）PIVKA Ⅱワーキンググループ（楠田理事）

ピブカルテストについては，抗体がなくなり中止となる。そこで，新たな会社が新たにキットを申請することになった。この決定をもってワーキンググループは解散となる。奈良県立医科大学の高橋先生にご尽力いただいた。

18）男女共同参画推進委員会（和田委員長）

委員の先生方とMLを通じて今後の活動について意見を頂いている。明日，初めての会合を開く予定。

19）災害対策委員会（和田委員長）

3月16日委員会が立ち上がり，各県代表者のメーリングリストを作成した。放射能や計画停電についてもいくつか要望書の提出を行い，被災地で過ごす児についてのQ＆Aを作成し，現在は復旧支援手順書を改訂中。救児募金についてはニコニコキャンプなどに送金している。今後の協力が呼びかけられた。

20）その他

- 小児科学会における「子どもの死に関する我が国の情報収集システムの確立」に向けたWGの活動と委員会設立に関する報告（渡辺理事）

日本小児科学会で新しいWGが立ち上がり渡辺理事に就任いただいている。死亡個票では情報にならないとのことで,小児科学会で医学的検討をすることになった。小児科学会の理事会で最終決定がなされる。いくつかの学会から委員が出て，システム作りが進む予定。

Ⅱ．協議事項

1）平成22年度決算に関する件（本間幹事）

本間幹事より資料に基づき説明が行われた。一般会計の歳出については学会HP作成費等を入れている。22年度単年度では一般会計は赤字である。特別会計についても説明があり，船戸監事による監査報告の後，総会で承認を得ることとなった。

2）平成24年度予算に関する件（本間幹事）

資料に基づき本間幹事より説明・報告が行われた。一般会計の給与手当が増加しているが，業務量増大に伴うものとの説明があり，それ以外にHP更新費，システム構築のための100万円を計上している。セミナーは鹿児島で開催するため少し増額している。事務所移転については支出なし。特別会計は24年度に名簿を印刷する予定で組んでいたが,変更の可能性がある。総会補助金は250万円を一般会計に移動させている。以上の内容で総会において承認を得ることとなった。

3）新・功労会員の件（戸苅理事長）

前回の理事会で承認された現在評議員の奥　起久子先生，判治康彦先生が功労会員に承認された。

4）サーファクタント補充療法のガイドライン策定について（楠田理事）

1987年にサーファクテンが発売されて以降25年が経ち，現在ではサーファクテンの添付文書の用法・用量以外の使用法が普遍化している。添付文書が実態に合っていないので，ガイドラインの策定を検討するとのことで承認された。

5）UB研究会幹事会「早産児核黄疸についての見解」について（船戸監事）

UB研究会が作成した「早産児核黄疸についての見解」を，学会ホームページに掲載することについて協議された。早産児核黄疸が未解決の問題であることを認識してほしいとの願いで作成している。昨日の理事会で資料にある「推奨」を「提案」にすることで承認された。

○質問：学会ホームページに掲載された場合，アルブミンを測っていないと問題になるというようなことにならないか（早川評議員）。

○回答：理事会でも検討したが，今回はUB研究会からの「提案」という形にし，学会はニュース扱いで報告するのみにとどめることになる。今後，対応を検討していく（戸苅理事長）。

12月に研究会を企画していて，この件をメインに話し合う予定にしている。ぜひ参加してほしい（船戸監事）。

6）名簿発行について（側島理事）

理事会で会員名簿の公開項目を検討し，今後は紙媒体で発行せず，会員専用ページ内で検索できることが望ましいという結論に達した。ID・パスワードで入っていただき，検索できるようにする予定である。公開内容については，今後検討していくとして承認された。

7）次期会長について（戸苅理事長）

理事会において次期会長に近藤裕一理事が選出された旨報告があり，承認された。

8）次期副会長について（戸苅理事長）

理事会において次々期会長に久保　実理事が選出された旨報告があり，承認された。